

わかやま・元気ふくし計画

資料2

～第4次和歌山市地域福祉計画概要版～

“元気な福祉のまち”

活動事例集

NPO法人 ほっとタウン有功
一般社団法人 地域生きがいサポートえる
高松根上り会（高松地区老人クラブ連合会）
西浜婦人会（さえずり会）
紀伊地区民生委員・児童委員協議会

城北第27区自治会
おのみなとこども食堂の会
四箇郷地区社会福祉協議会
三葛きずなの会
NPO法人和歌山市断酒会友綱



和歌山市

「わかやま・元気ふくし計画」とは



和歌山市では、平成 17(2005) 年に第 1 次、平成 22(2010) 年に第 2 次、平成 27(2015) 年に第 3 次の「和歌山市地域福祉計画」を策定し、多くの人々の協力のもとで推進してきましたが、人々の暮らしの変化や社会構造の変化を踏まえ、人々が様々な地域生活課題を抱えながらも、住み慣れた地域で自分らしく暮らしていける「地域共生社会」の実現に向け、市民、団体、事業者、市・関係機関等が協働して推進していくうえで、共有する理念と取り組みの方向性を定めるために、「わかやま・元気ふくし計画（第 4 次和歌山市地域福祉計画）【令和 2(2020) 年度から令和 6(2024) 年度】」を策定しました。

● 地域福祉計画とは ?

社会福祉法第 107 条の規定に基づく、市町村地域福祉計画にあたるものです。

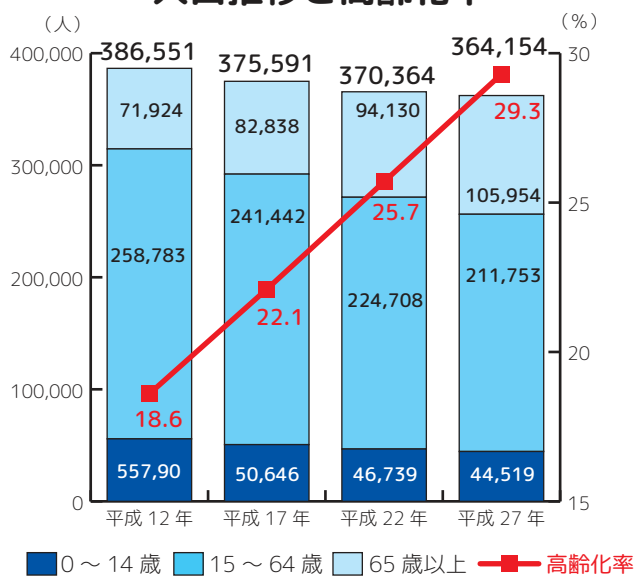
同法第 4 条には、“地域福祉を推進すること”の目的を、地域住民、社会福祉を目的とする事業を営む者及び社会福祉に関する活動を行う者が相互に協力しあうことにより「福祉サービスを必要とする地域住民が地域社会を構成する一員として日常生活を営み、社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加する機会が与えられるように」することであるとしています。

和歌山市の現状

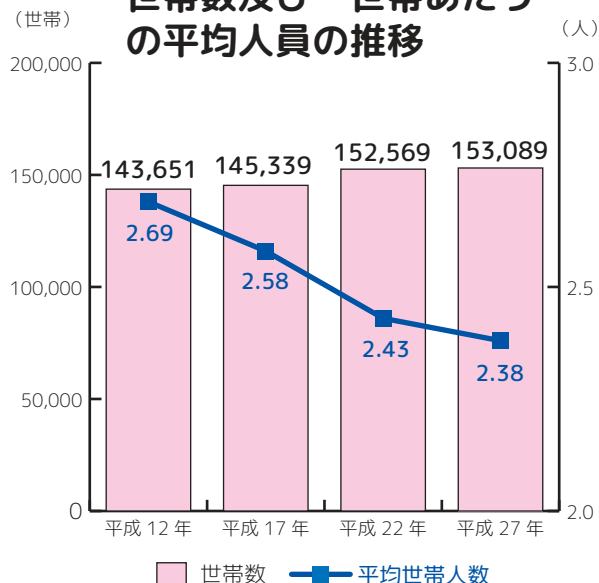
人口は減少傾向で推移しており、平成 27 年には 364,154 人となっています。

また、世帯数は増加傾向で推移していますが、一世帯あたりの平均人員は減少傾向で推移しています。

人口推移と高齢化率



世帯数及び一世帯あたりの平均人員の推移

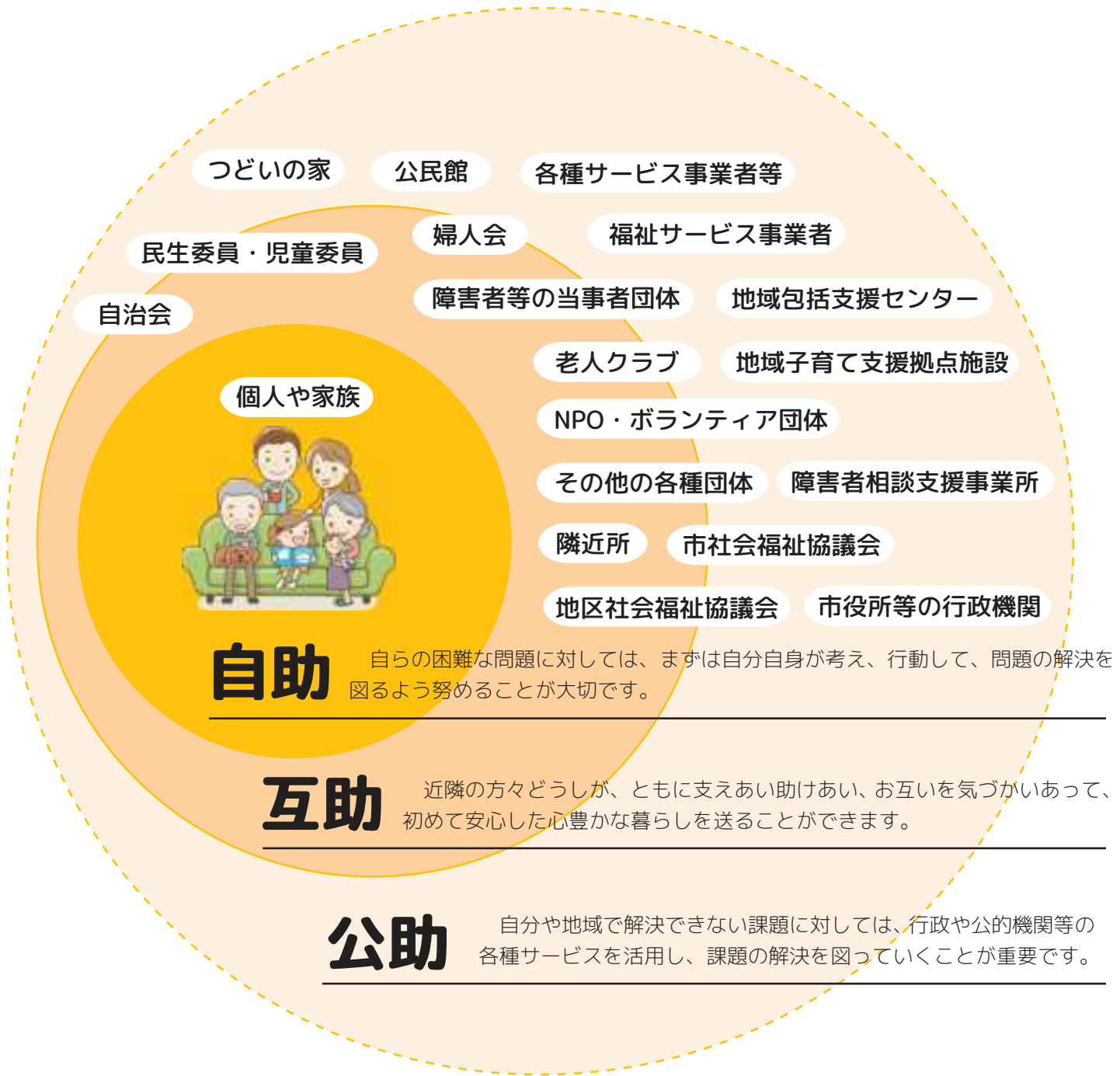


このような社会状況の変化に応じた
支えあいのしくみづくりが求められている。

「地域福祉の推進」が重要

地域福祉とは

地域福祉とは、それぞれの地域において人びとが安心して暮せるよう、住民同士が協力し合って、日常生活での困りごとの解決に取り組む考え方です。



自助

自分や家族でできることは自分です

- ・ 家族の介護
- ・ 健康の管理
- ・ 病気の予防
- ・ 避難所の確認



互助

地域でできることは地域です

- ・ 高齢者世帯の見守りや交流
- ・ ボランティア活動
- ・ 地域の防災・防犯
- ・ 自治会活動



公助

個人・家族や地域でできないことは公的制度を利用する

- ・ 医療
- ・ 介護保険
- ・ 保育所
- ・ 年金
- ・ 生活保護



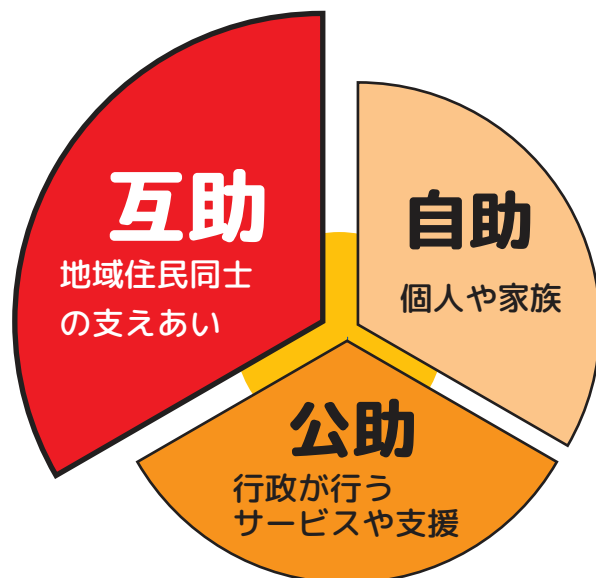
基本理念

基本理念は、本市が目指す地域福祉のあり方の方向性を示す普遍的な理念であることから、第3次計画を承継し、本計画の基本理念を次のように定めます。

お互いを尊重し、支えあう “元気な福祉のまち”を、 わたしたちの“参加と協働”で 創出します

社会情勢や地域社会の変化により、今まで以上に課題が複雑かつ多様化しており、市民が住み慣れた地域で安心・安全に生活し、年齢や性別そして障害の有無にかかわらず、個人として尊重され、市民同士が支え合い、適切なサービスを受けられるような福祉のまちづくりが求められます。

また、人と人が共生する地域づくりを実現するためには、市民一人ひとりが取り組む「自助」、地域で協力して取り組む「互助」、行政等が取り組む「公助」が適切に役割を担うとともに、関係機関を含め、それぞれが連携・協働し、分野を超えて横断的に地域全体で取り組むことが重要となります。



基本目標

基本目標は、基本理念の考え方を地域で実現するための方向性を示すものです。

1. 地域での生活を支えるサービスや活動を充実します
2. 地域福祉の担い手と協働のしくみを広げます
3. 安全で快適に暮らせる地域の環境をつくります



取り組みの体系

基本理念のもと、3つの基本目標の実現をめざし、11の取り組みの柱を立て、市民・団体・事業者と市が協働し、計画を推進するとともに、11の取り組みを推進していくための3つのアクションに基づいた6つのプログラムの事業を具体的に実施します。

基本理念

お互いを尊重し、支えあう“元気な福祉のまち”を、わたしたちの“参加と協働”で創出します

基本目標

1

地域での生活を支えるサービスや活動を充実します

基本目標

2

地域福祉の担い手と協働のしくみを広げます

基本目標

3

安全で快適に暮らせる地域の環境をつくります



1 困りごと
支援につなぎます



2 多様な困りごと
サービスや活動
をすすめます



3 暮らしを
暮らしを
高めます



4 健康や
生きがい
づくりを
すすめます



5 地域福祉
への理解を
すすめます



6 地域福祉
の担い手
を増や
します



7 地域福祉
活動への
支援を
充実
します



8 ネット
ワークを
広げ
ます



9 地域の
つながり
を
強く
します



10 快適な
生活環
境を
つく
ります



11 安全に
暮らせ
る地
域を
つく
ります

11の取り組みを推進していくための3つのアクションに基づいた6つのプログラムの事業を具体的に実施します。

アクション

1 身近な地域でだれもが参加できる活動の推進

プログラム

A

地域での話しあいや学習の推進

プログラム

B

災害時に支援が必要な人を支える取り組み

アクション

2 さまざまな困りごとを支えるしくみづくり

プログラム

C

困りごとを抱えた人への支援の推進

プログラム

D

身近な相談窓口とネットワークの充実

アクション

3 地域福祉を支える基盤整備の推進

プログラム

E

協働事業の担い手の養成

プログラム

F

担い手や活動を支える体制の充実

団塊世代の男性たちの居場所、地域交流サロン'ほっと'

●活動をはじめたきっかけ

地域交流サロン'ほっと'は当初、退職後世間とのつながりが少なくなり、家庭でも時間をもてあましてちな団塊世代の男性たちが集まって話せる居場所として、平成17年から地域の歩いて通える場所に開設しました。

●主な活動

サロン活動では、お茶を飲みながらにぎやかに話したり、体操、手芸、折り紙教室に参加したり、男女問わず気軽に集まり楽しい時間を過ごしています。毎回15人程度の参加者があり、花見やカラオケも開催します。

より住みよい地域づくりを目指す中で、サロン参加者の発案で、六十谷駅の置き傘コーナーの運営・管理を行っています。皆で協力して様々な施設や学校などに不要傘の提供を呼びかけて傘を集め、故障がないか点検し、日曜大工の得意なメンバーが傘立てを作りました。地域の方に喜んで利用していただけであり、地元の小学生がポスターを作って駅に貼ってくれています。

また、午後のサロン会場では体操教室が開催され、主に地域の女性の方が参加しています。体操の後には茶話会でおしゃべりしながら、健康や地域についての話題や情報を共有しています。

●活動の工夫

地域の声をサロンから発信し、住みやすい街づくりができるよう、サロン参加者からのボトムアップ方式で情報を共有しています。例えば集まって話す中で、参加者は地域の話題やニュースについて議論したり、やってみたい活動があれば皆に相談しながら実現に向けて知恵を出しあっています。

●今後の課題

地域福祉は人が基本。地域住民の誰もが地域福祉の担い手であり、受け手です。皆で協力しながら出しあった知恵を実現に向けて繋げていくことができるサロン活動を、継続できるよう進めていきたいと思えます。「誰もが安心に暮らせるまちをみんなで創る」。これからの課題です。

サロン活動の様子



体操教室の様子

善意の貸し傘



【組織の構成】

つれもて健康体操：20人程度

花いっぱい運動：4人

認知症啓蒙活動：和歌山県全域で行っている

(参加者は、地域住民、自治会、キャラバンメイト、認知症の人と家族の会など)

一般社団法人

地域生きがいサポートえる

「健康体操」や「花いっぱい運動」で住みやすい地域づくり

●活動をはじめたきっかけ

住みやすい宮前地域をつくりたいという思いから、団体を発足しました。

最初は認知症の啓蒙活動のために、平成27年から認知症サポーター養成講座を実施し、その後は他の団体等と繋がりを持ちながら活動の幅を広げています。

●主な活動

つれもて健康体操には毎回15～16人が参加しており、地域の居場所になっています。月に1回は体操の後にメンバーの誕生会も行います。参加費は毎月1人200円とし、その中で誕生会もまかない、参加者の負担にならないようにしています。

花いっぱい運動では、少人数で市道の植え込み80mlにわたって花を植え、草引きや水やり、植え替えなどの手入れをしています。主な活動時間はメンバーの仕事が終わった夕方からです。ごみの多かった自宅前の道路をきれいにしたいという思いからこの取り組みを始め、現在は和歌山市のアダプション・プログラム（公共の場を「養子」に見立て、市民が里親となり清掃を担う制度）に登録し活動しています。花苗の購入などの活動資金には地域の方からの寄付も含まれています。

●活動の工夫

地域の住民や団体、自治会、地域包括支援センター、小学校、介護事業所、社会福祉法人などつながりを持ち、集まって話し合うなど連携して活動を実現させています。

つれもて健康体操では、代表者がケアマネジャーとしてつながりのある地域の有料老人ホームにお願いし、使っていない時間に食堂をお借りできています。

●今後の課題

花いっぱい運動について、現在は自宅の水道から水やりができる限られた範囲での取り組みですが、今後協力者が増えれば活動を広めていきたいと考えています。

体操の様子



花いっぱい運動



月に1度の誕生会

高松根上り会 (高松地区老人クラブ連合会)

【組織の構成】

登録会員数：176人

実活動者数：60人

【活動の拠点】

高松自治会館、ひよこサロン会館等

「高松ひよこの会」で多種多様な地域活動を継続中

●活動をはじめたきっかけ

平成28年度に、和歌山市の事業で「モデル地区地域福祉ワークショップ」を開催して話し合った際に、地域の居場所をつくる構想ができました。その後高松根上り会が母体となり、「高松ひよこの会」と称して、高齢者が気軽に参加でき、健康でいられるよう、居場所づくりをはじめ色々な事業に挑戦しました。

●主な活動

「生きがい居場所サロン」を毎週木曜日に開催し、毎回20人程度の方が参加します。皆で話をしたり、歌ったり、また小物づくりや脳トレゲームなど、手先や頭を使う活動にも取り組んでいます。第3週には出前講座など勉強会を行います。

毎週金曜日に健康体操、毎月第2・第4火曜日には河川敷でグラウンドゴルフを行います。グラウンドゴルフは参加者約20人のうち、ほとんどの方が高松ひよこの会で新たに始められた方です。

第3火曜日を中心に、「わかやま歴史探訪」として徒歩と市営バスでの外出活動を実施し、和歌山西国33カ所の観音霊場めぐりなどを行ってきました。地域で誘い合って外出するこの取り組みで、高松ひよこの会の活動はより盛んになりました。

また、簡単な野菜づくりにも取り組んでおり、サロン活動の際に料理をして皆で食べたりもします。

●活動の工夫

当初、100人余りに対してどんな活動がしたいかをアンケートで調査し、その意見をもとにサロン活動などの事業を進めています。

毎月会報を発行し、行事への参加を促しています。また新規会員獲得に向け、新年度の和歌山市元気70パスが連絡所で配布開始される時に、根上り会のPR誌と一緒に配布しています。地域包括支援センターや小学校とも連携しており、例えば小学校で将棋を教えたりしています。

●今後の課題

関係行政機関や地域包括支援センターとの連携を密にし、情報を共有していければと思います。

今後は外国の方や文化と交流していきたいと考えており、実現するための方法などを模索しています。



健康体操



生きがい居場所サロンの様子



歴史探訪活動

【活動の拠点】

西浜自治会館

参加人数（延べ）

平成 28 年度：381 人、平成 29 年度：301 人、平成 30 年度：300 人、令和元年度（12 月現在）：281 人

西浜婦人会（さえずり会）

一人を「独り」にさせない地域の居場所、「さえずり会」

●活動をはじめたきっかけ

地域で、一人暮らしの高齢の女性が亡くなりましたが、近所の人にも気付かせませんでした。もっとお互いに声を掛けたり、支え合うことができるように、一人が独りにならないようにと、平成 28 年から「さえずり会」を開催しています。

●主な活動

毎月第 2 第 4 日曜日午後 1 時 30 分から 4 時まで、西浜自治会館で開催しています。年齢・性別・地域を問わず独りで家に居るならお喋りに来て下さいと呼びかけ、毎回 20 人程度の方が来られます。会員制ではなく会費もありません。何時に来て何時に帰っても自由です。いつ来ていただいてもいいように、会長が 4 時までには必ず居るようにしています。

勉強会や簡単な手芸、脳トレ、川柳、時には「漢字一字で私を表す」など、色々な活動をしています。またお花見会やクリスマスパーティ、新年会なども開催し、30 人程度の方が参加されます。楽しい催しが次への誘いになります。

そして年末には 1 年の活動を振り返り、皆で感想を書き出したり、話し合っています。

●活動の工夫

活動の最初に必ず、ニュースについて話しています。

勉強会などを企画する際には、民間の企業からも講座や講師を探して、活用しています。

誰とでもお喋りが出来る様に自由な雰囲気を作り、また「自慢の料理を教えてください」「手作りの作品を皆さんに教えてあげましょう」等、多様な活動で交流しています。

●今後の課題

今後も継続して、各月にさえずり会の会報を出すとともに、毎月第 2 第 4 日曜日に楽しく会を催していきたいと考えています。



健康についての講座の様子



健康についての講座の様子



サークル「ママといっしょ！」で子育て支援

●活動をはじめたきっかけ

少子化や虐待などのニュースが流れる中、乳幼児を育てている母親の孤立化を防ぎ、友達を作って楽しく子育てができるようにと考え、平成20年にサークルを立ち上げました。

●主な活動

月に1回、弘西文化会館2F大会議室で開催しており、平均10組前後の親子が参加します。会場にはカーペットを敷き、玩具や遊具、絵本などを置き、CDプレイヤーで音楽をかけておきます。参会する親子は受付で名前シールを服に貼り、自由に遊んでもらいます。北保健センターの保健師による身長・体重測定、育児相談なども受けられるようになっています。後半には気分転換のためのお茶の時間を取り、お菓子を配ります。そして最後に紙芝居をして場が和んだところで終わりにします。

紙芝居では参加している子どもたち全員の名前を呼びかけており、参加者やスタッフが名前を覚えられ、仲良くなるきっかけになっています。

また、季節の行事としてクリスマスのイベントなども行っています。

●活動の工夫

乳幼児が口にするような玩具などは洗ったり、アルコール消毒をしたりして気をつけています。また、平成30年3月からボランティア行事用保険に加入しました。

実施月のポスターは、自治会の掲示板、直川、川永、山口、紀伊各地区の支所、幼稚園、小学校、小児科医院、郵便局など、各所に貼ってもらっています。

紙芝居のセットは、児童健全育成事業の助成金で購入し、活用しています。

●今後の課題

年間10回の開催を維持しつつ、より多くの人に知ってもらうため、宣伝に工夫が必要と考えています。

特に、今後は新興地の住民の方にどう情報を届けるかが課題です。



受付の様子



【組織の構成】

登録会員数：38戸（城北27区の住民を会員とし、有志の自由参加）

実活動会員数：12人

【活動の拠点】

地区内の喫茶店

「居場所づくり」や「防災活動」で助け合える地域を目指して

●活動をはじめたきっかけ

地区内での人間関係や連帯感が薄く、何事にも無関心な雰囲気があり、何とか助け合いの心を強くしたいと考えていました。また平成28年に地区でアンケートを行ったところ、「地区内の絆が必要」という結果が目に見えたこともあり、平成29年から地域の居場所「ほっとカフェ27」を開始しました。

●主な活動

毎月第3日曜日に1回、近所の喫茶店に集まり、活動しています。力を入れているのは防災に関する取り組みで、避難所運営ゲーム（HAG）や、ビデオによる勉強会などを行っています。また、地域の美化活動にも取り組んでおり、歩道植栽の草刈りなどを年4回行います。防災訓練や清掃活動では自治会名が入ったジャンパーを着ており、同じ地域の方からは一目瞭然です。

他にも食事会や講演会などを企画することもあります。

また、活動の合間にはティーブレイクを入れ、その際に近辺のイベントの情報を共有したり、地域のことについてざっくばらんに話しています。

●活動の工夫

活動を始めた3ヶ月は月2回の開催でしたが、構成員に主婦の方が多く、活動が負担とならないよう月1回に変更しました。

地区内の喫茶店が、使用料と飲み物代で活動の場として協力してくれています。

●今後の課題

今後は買い物支援など、各家庭での困りごと相談事業にも取り組んで組みたいと考えています。

また、地域に同様の小さいグループ、居場所がいくつもできれば良いと思うので、次の世代にどう伝え、取り組みを広げていくかが課題です。

避難所運営ゲーム（HAG）を実施



喫茶の飲み物でひと休み



地域のあらゆる世代が子どもを見守り、交流する子ども食堂

●活動をはじめたきっかけ

全国的に広まっている子ども食堂を地区に根付かせることで、子ども、親、高齢者の孤立を防ぎ、あらゆる人が参加でき助け合える地域共生の姿の実現を目指して、平成30年に発足しました。

●主な活動

月に1回、中学生以下の子どもは無料で、大人は300円の参加費を頂いて、皆で食事を楽しんでもらいます。1回あたりの参加者は150人程度で、平均20人のボランティアの方にご協力いただきます。食材は食品ロスの取り組みであるフードバンク活動から頂いたり、他の子ども食堂と食材を共有したり、近所の農家の方から野菜を頂くこともあります。食器は給食用メーカーから頂いた型落ち品などを使用しています。バザーも開催しており、多くの方のお心寄せを頂いています。

食事の前には大学生のボランティアが子どもの勉強を見たり、一緒に遊んでくれています。高齢者の方が折紙を教えてくれることもあります。子どもから高齢者まであらゆる世代が集う地域交流の柱になっています。

●活動の工夫

子ども食堂が食事を通した子どもの見守り活動として広まるよう、定期的にチラシを作成し広範囲に配布しています。他の子ども食堂と互いにチラシを設置するなどの協力体制もできています。

今後は、同様の取り組みが市内に一つでも多く誕生するように、他の子ども食堂とも協力しながら、地域共生のモデルとして情報を発信していきたいと考えています。

●今後の課題

地域交流の中で、支えが必要な子どもや参加者をつながりを持つことができるので、そこから適切な支援に繋げて参加者の困り事を解決できるよう、今後は専門機関との連携を深めていきたいです。

食事の前に勉強



配膳の様子



食事の様子



【活動の拠点】

四箇郷連絡所

(「おしゃべりカフェ」の会場は松島北自治会館)

「おしゃべりカフェ」でつどおう・はなそう・ひろがろう

●活動をはじめたきっかけ

生活支援コーディネーターと話し合う中で、地域のキーパーソンの方を中心として、住民が気軽に集い交流できる場の開催を目指すこととなり、平成30年12月から「おしゃべりカフェ」を開始しました。

地区社協が実施する「ふれあい食事会」に参加できない住民の方達も近所でお話しできる場所づくりができればいいと考えています。

●主な活動

毎月1回、13:30～15:00の間、「おしゃべりカフェ」を開催しています。場所は松島北自治会館をお借りし、地域の方に声を掛けてお手伝いいただきながら、コーヒー・紅茶やデザートを提供しています。自治会内では回覧とポスターで周知しています。

毎回20～30の方が参加されています。男女問わず来ていただけており、皆様ゆっくりとおしゃべりされています。日頃の雑談や地域のことについて自由に話されることで、情報交換の場となっています。

●活動の工夫

毎月のデザートを100円以内で提供できるように、手作りして用意するなど、工夫をしています。

自治会の男性の方がよく来られるので、地域の他の男性の方も入って行きやすい雰囲気できています。

●今後の課題

同様のカフェなど、近所の方が集い、つながりができる場について地域の中に開催場所を増やせたらと思っています。



「おしゃべりカフェ」の様子



見守り訪問や健康づくりで地域のコミュニケーションを増進

●活動をはじめたきっかけ

地域の一人暮らしや夫婦二人住まいの高齢の方を対象に自宅訪問をし、話し相手となったり、安否確認で事故の未然防止や早期発見に努めて、地域内のコミュニケーションを図ることを目的に地区でボランティアを募り、平成25年に「三葛きずなの会」を発足しました。平成29年には和歌山市の担い手養成講座にモデル団体として参加し、活動を進めています。

●主な活動

2ヶ月に1回、独居高齢者への声かけや家庭訪問を行い見守り活動を続けています。地区を東西南北でグループ分けして高齢者宅を掘り起こし、会員17人でそれぞれ分担して訪問しています。

毎週木曜日に約1時間、三葛集会所で健康体操を開催し、近所の方30人前後が参加されます。月に1回は体操後に会費200円で茶話会を開催し、会長によるミニ健康講話を組みこんでいます。新聞記事などから集めたトピックで資料を作成し、会長の講話で情報を共有します。

また年1回、町内の高齢者に参加して頂き懇親会を開催しています。70～90の方が参加し、落語や手品、二胡の演奏などの催しも取り入れています。

●活動の工夫

健康体操の内容を組み替えたり、半年ごとに健康についてのイベントとして、体力測定、歯科衛生士や体操インストラクターの講演なども組み合わせることで、より健康増進を図っています。

健康づくりや懇親会などの行事については、地域の介護事業所や社会福祉法人とも連携し、活動内容を充実させています。

健康体操の活動では、会場の準備、体操の先生役、茶話会の準備、講話の担当、片づけなど様々な役割を上手く分担できています。

●今後の課題

男性の会員や参加者数はまだまだ少ないです。住民が自由に参加し友好を広げたり、健康づくりができる集まりを地区内に増やしていけたらいいと考えています。



健康体操の様子



健康体操の様子



健康講話を取り入れた茶話会

【組織の構成】

会員 30～40人、実活動 25人

【活動の拠点】

北支部：川永支所、中央支部：ふれあいセンター、花山支部：花山薬師堂、西支部：河北コミュニティセンター、南支部：南コミュニティセンター

アルコール依存症者の社会復帰を目指して

●活動をはじめたきっかけ

和歌山市断酒会友綱は、お酒で悩んでいる人やその家族、周りの人の悩みを受け止めて回復できるように支援する団体として、昭和43年に発足し、平成15年にはNPO法人となりました。

●主な活動

断酒会は、体験談で始まり、体験談に終わります。

市内5支部で毎週例会を開き、酒害体験を発表します。参加者はその話を聞き、自分の断酒生活に活かしていくよう精進を重ねていきます。そして毎月1回開いている総合例会では表彰を行い、断酒の継続をみんなで祝います。

定期的な活動以外にも、近畿ブロック大会や全国大会、研修会に参加する機会も多くあります。全国から集まる仲間と出会い、体験談を聞くことで、新たな感銘や気づきを得ることができます。

また、市民公開セミナーを開催し、多くの市民を酒害から助け出そうと会員一同奮起しているところです。

●活動の工夫

再飲酒防止のため、専門病院と連携し、アルコール依存症の人の治療をすすめる過程で断酒会とのつながりを持ち、退院後スムーズに地域の断酒会に参加できるようにしています。

年末にはお酒のない忘年会を開催しています。

●今後の課題

アルコール依存症はうつ病や自殺などにつながってしまうこともある病気で、最近は高齢者や女性の中にも患者が増えてきています。「一日断酒」の合言葉のもと、困っている人を断酒会に迎え入れ、仲間とともに断酒継続できるような活動を続けていきます。



表彰の様子





和歌山市

発行日：令和2年3月

発行：和歌山市 福祉局 社会福祉部 高齢者・地域福祉課

〒640-8511 和歌山市七番丁 23 番地

T e l : 073-432-0001 (代表) 073-435-1063 (直通)

U R L : <http://www.city.wakayama.wakayama.jp/>